



おしえの花束

雲晴

「雲 晴」第七号

平成二十五年七月一日発行

貞 林 院 瑞 正 寺
〒125-0041 東京都葛飾区東金町五丁目四六―五
電話 (03) 3627-3411
FAX (03) 5699-5915

一滴水滴凍

何かにつけて、すぐかっとなる人がいます。そういう人を、

―瞬間湯沸かし器―

と呼ぶそうです。辞書にも出ています。

まあ、この手の人のほうが、案外、善人ですね。単純で突き合いやすい。むしろ、怒りを外に出さない人のほうが陰険です。ねちねちしているのはよくありません。

すぐかっとなり、すぐに忘れてしまうのがいちばん。その意味では、「瞬間湯沸かし器」であればいいわけです。

じつは、禅の言葉に、

一滴水滴凍―

があります。この言葉が「瞬間湯沸かし器」をいったものです。

一滴一滴の水がしたたり落ちて、その瞬間に凍ってしまう。そういった意味です。

仏教の開祖のお釈迦さまは、悟りを開いた聖者であっても、転んで痛いと思うし、美しいものを見て感動すると述べておられます。

それだと凡人と同じですが、凡人との違いは、凡人は美しいものに執着し、痛いといった感情を持続させてしまいますが、聖者はそうではありません。

聖者は執着しないし、マイナス感情を持続させることもありません。

わたしたちは腹立たしい出来事に遭遇して、腹を立てまいと努力します。そうすると、怒りの感情とそれを抑えようとする気持が葛藤状態になり、かえってよくありません。からりとすればいいのです。

「偉くなりたいたですか？」の問いに
 アメリカ、韓国、中国の若者の八十
 %以上が「偉くなりたいた」と答えた
 のに対し、日本では四十%に過ぎな
 いと朝のニュースが伝えていた。

も途中で挫折してしまうことが多い
 るようになっていく。

スポーツや芸
 術などの世界
 では、より高
 “近頃、思うこと” 回向院住職 本多義敬
 “みんなちがって
 みんないい…”(金

きを目指し真剣に努力・精進する若
 者の活躍に感動させられることが多
 いが、これからの日本を背負う若者
 の半分以上が、まあまあ暮らしがで
 きればよいと思うと言うのは、著者

と聞いたことが有る。国力、経済力の
 低下に加え、かつて誇った学力までも
 低下とは…教育熱心な親が増え、塾な
 どで忙しくなった子供達は、むかしの
 ように日が暮れるまで野球などして遊
 ぶことがなくなつた。正義の味方的
 ガキ大将もいなくなり、頑張る子、
 目立つ子、真面目でよくできる子な
 どがいじめの対象とされ、皆と同じ、
 違うと不安という風潮が段々見られ

新泉

落語の世界を訪ねて



「今晚は今晚は」
 「誰だい。シンバリなんてしてないか
 らあけてお入り。アレ知らない小ソウ
 さんだね、なにか用かい。」
 「へへ旦那さんわかりませんか、今
 日の昼間助けて頂いた小憎ですよ。」
 「確かに小さい狸をニガしてやったが
 何だいシロ今バケているのかい。これ
 はびっくりした。」

「あれから巢に帰ってオヤジに話しま
 したらオヤジが腹をたいて喜びまし
 て恩返しをしてこいということをやっ
 てきました、いえ恩返しをしないとお
 前は人間みたいなやつだといわれて仲
 間のつまはじきにされます。」
 「そうかい。まあ今日はもう遅いから
 話は明日しよう。おやすみといつても
 夜具が一組しかない、何金にくるまっ

て寝るってああ狸の金は八畳敷か。」
 「私は子供なので四畳半で。」
 「オヤスミ、あれもうねてるの。」
 「これが狸寝入りで、オヤスミナサイ。」
 朝おきてみておどろいたきれいに片づ
 いた部屋になり朝ごはんも作ってある。
 「オイ、恩返ししてどのくらいしてくれ
 るんだ。」
 「そうですわね二三日でしょうか。」
 「もう一つ何にでもバケラれるかい。」
 「ハイ普通のものでしたら。」
 「昨日の夜から考えてたんだが、折角
 恩返ししてくれるなら金もうけをさ
 せてもらおうと思つてな。オレは実は
 バクチが大好きで、チョコイチという

一口法話



「日暮の中のお念仏」

法然上人のみ教えは、一心に専ら口に
 南無阿弥陀仏と申すお念仏です。
 どんな時、どんな処、喜びの縁、悲し
 みの縁、どんなご縁で申して戴いても
 よい、つまり日暮の中に申しつづけて
 いくお念仏です。

そのお念仏の声に答えて、み仏は必ず
 常平生より、のちの世まで、導いて下
 さり、お教い下さるのです。
 「水のように」という詩を紹介します。

熱いものは すぐさめる
 かたいものは すぐこわれる
 はげしいものは すぐよわる
 信じるということは
 やわらかく しなやかなもの
 たゆまず ながれる水のように
 さめず こわれず よわらない

お念仏の信仰もこの通りです。
 たゆまず流れる水のように、さめず、
 こわれず、よわらない。

鎌倉時代以前の諸宗派

一 真言宗 ①

真言宗 弘法大師空海によって開かれた、密教を中心とした宗派です。また真言・陀羅尼を重視することから、真言陀羅尼宗ともいい、天台宗の密教を台密(たいみつ)というのに対し、東寺を中心に展開したので東密(とうみつ)ともいいます。大日如来を本尊とし、『大日経』『金剛頂経』を根本経典としています。

密教とは顕教(顕かに説かれた教え)に對する言葉です。長い修行の末に成仏することを目指す指す顕教に對し、悟りの世界を真言によって現すことができ、この身このままで成仏できる(即身成仏)と説く密教を深秘の教えと位置付けました。密教は心に曼陀羅(悟りの世界すなわち大日如来を中心し諸仏菩薩が調和して存在する世界を可視的に図示したもの)の諸尊を觀念し、口にその真言を



唱え、手に諸尊の印相を結ぶという三密(さんみつ)瑜伽(ぎや)の修行により本尊と一体となり即身成仏することをめざしています。

宝龜五年(七七四)讃岐国多度郡屏風浦(現・香川県善通寺市)で生まれた空海は延暦二三年(八〇四年)に唐に渡り、密教の第一人者である惠果(けいこ)から密教の教えを受けました。

帰国後、弘仁七年(八一六年)に高野山を開き、金剛峯寺を建立しました。更に弘仁一四年(八三三年)には東寺を賜り、東寺を根本道場とし、

教団の確立をみました。

承和二年(八三五年)の空海の没後、宗派の分流が起こり、真言宗は分派の多い宗派となりました。

バクチなんだが、これは六面あるサイコロの何が出るかを当てるだけの単純なものでサイコロにバクテてくれてオレの言った目を出してくれればいいんだが、できるか。

「バクチですか、まいいでしようでは」といつて宙返りをするとサイコロには

「オイオイでかいね、もっと小さく、よしよし丁度いい。それでは振ってみるよ、おいサイコロがずちちやいけな

「何だいやらないの。」

「今日は皆胸を取るとつぶれちゃうんで胸を取るやつがいらないんだ。」

「じゃオレが胸をとるこのサイをつか

つてね。変なものじゃないだろう、いくよ入りました、さあはった。あれピンがないね、ありがていピン尻の穴それはピンだ又入る、よしよし今度は2が少くないね。2が出るよ。2だ目玉だ2だ2だホラ2だ。」

「今度は5が少くないけど」「お前、目を読むな」「え、それじゃわからない。目をよまなければいいんだな」天神様これが一番出しやすい逆立して尻の穴、だ、うめバチだ、天神様だ、あけてみきたないな。じゃ2は目玉かい、あたら狸が笏(しやく)を持って座っていました。



このようにお念仏を申しつづけていくのです。

やわらかく、しなやかに、日暮の中から南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏とお念仏を一緒に申しつづけてまいりましょう。

精進してまいりましょう。

(総本山知恩院布教師会のホームページより)



七月・八月のお盆法要

本年の七月お盆法要は次のとおりです。

七月十四日（日）

午後二時より

毎年七月にお参りの方は同封のご案内をご覧ください。

なお八月お盆法要につきましては、八月十三日（火）

午後三時より行います。

毎年八月にお参りの方には、来月七月に棚経参り

（本年は地元の天下・仲町）のお知らせとともにあらためてご案内いたします。

宮城県石巻仮設住宅での

炊き出しに参加

去る四月二十九日～三十日かけて、石巻の仮設住宅での炊き出しに副住職とともに参加してきました。

同じ浄土宗で文京区にある心光寺（住職・清水道隆上人）では、一昨年の東日本大震災直後から当地での支援活動を継続的に続けています。

清水上人の友人が住職をされている、石巻市門脇町の西光寺は海岸から数キロの所にあるため、津波により甚大な被害を受けました。本堂・庫裏に海水

とがれきが流れ込み、参道と墓地も跡形もない状況だったとのこと。

清水上人の声掛けにより多くの友人やボランティアにより、現在では本堂で法要もできるようになっていきます。

今回もこの西光寺の本堂で寝泊まりさせていただきました。

この地区で家を亡くした方々は、まだ大勢仮設住宅に住んでいるため、心光寺では年に数回、この地区に炊き出しにきております。

初めての参加でしたが、テント・テーブル・イス・厨房設備からすべて東京からの持ち込みで、応援スタッフも三十名以上という大規模なものでした。



「出張居酒屋」は大盛況でした

今回は「出張居酒屋」という名目で和食とイタリアンなどメニューも豊富で、各種お酒も用意されており、これまでの炊き出しがどうしても女性の参加が多く、男性の参加が少ないことからこのような企画にしたとのこと。

家族連れでの参加の多く、子どもたちは美味しい料理を食べ、大人はお酒も入って、日頃のストレスも多少は薄らいだ様子と思えました。

現地の方々とは飲みながら話をすると、やはり口々に先の見えない現在の生活と将来の不安を語っておいりました。

仮設住宅の生活も二年を過ぎておりますが、経済的な理由で自宅の再建ができない、またはアパートや一般住宅に移転できない人たちにとっては、自分たちだけが取り残されているような焦燥感があるようです。

本年二回目の炊き出しは、八月十八日に行う予定とのことであり、是非また副住職とともに参加をして、現地の人たちを励ましたいと思います。

◇浄土宗一口メモ◇

「浄土宗の本山について⑤」

「知恩寺」

京都市左京区、京都大学のそばにあり「百万遍」の名前でもよく知られています。浄土宗をお開きになった法然上人が、都の人々にお念仏の教えを説かれた「賀茂のかわら屋」が前身となっております。法然上人亡き後、直弟子で当時の二世勢観房源智上人がここに住み、法然上人の御影堂を建立したものであり、師の恩を知る寺ということ。「知恩寺」と名付けられました。

元弘元年（一三三一年）都に疫病が蔓延した際、後醍醐天皇の勅命により七日七夜百万遍の念仏を称えたところ、疫病が治まったことから「百万遍」の号を賜ったものです。

（真林院瑞正寺）